

みことばを生きる



妻と共に

高坂のぞみ教会 YouTube チャンネル紹介

タナボタ的恵みを期待して

高坂のぞみ教会 牧師 上野 有

「お、1000人超えた！」
昨年8月の話です。礼拝で語った説教をアップすることがメイン、“バズる”も“炎上”も無縁、一教会のYouTubeチャンネルとしては上出来です。ショート動画をはじめとする短い動画が好まれる昨今、40分の説教を聞いてくださる方がおられること自体、感謝、感謝です。しかも「講解説教に勝るものはない」という教えに立ち、特別な時以外は講解説教しか語っていませんので、これもYouTube的には不向きかと思えます（最新動画を見ても、話が途中なのでつながらない^^;）。『上出来』です。

コロナ禍を機に

YouTubeチャンネルに説教を公開するようになったのは、コロナ禍に入った2020年のことでした。それから5年。ノロノロゆっくり上昇し、現在登録者数1200名を超えたところ。しかし、1つの説教動画の再生回数が500回を超えることも多くなり、反響も聞こえてくるようになりました。「YouTubeでいつもメッセージを聞いていますが、一度来て見たいと思って」という来会者が来られた時には、新しい宣教の時代が来たことを肌で感じ、「教会には行っていませんが、YouTubeでメッセージを聞いて養われています」という言葉が聞こえたと、果たして教会の定義とはなんだろう？という課題にも直面しました（結論的には、やっぱり対面で集まるのが大切、必要だと思っています）。

とはいえ、YouTubeが用いられることを否定する理由もなく、もっと多くの方に聞いていただければ宣教のお役に立つのだろうと思い、昨年は、説教以外のプログラムも取り入れてみましたが、思うような伸びは見せず、難しい世界だなと思わされます。

「複数のチャペル」をつないで

当教会は複数のチャペルがありますが、各チャペルをリモートでつなぎ、一つの礼拝を捧げるスタイルです。牧師



リモート画面

である私は、週替わりでチャペルを巡回し、一つのチャペルから全体に向けて説教を語っていますので、リモート側のチャペルのみなさんに説教を届けるための工夫が必要となります。具体的には、画面上に自分の顔を映すだけではなく、聖句やイラストなどを入れることで、画面を覗いていけばすべての情報を得ることができる形をとっています(左下写真参照)。

このスタイルがYouTubeではそのまま使えますので、いっさい編集をせずにアップできるのがメリットです。編集を加える必要があれば、手間も時間も必要となりますが、実に簡単にアップができますので、タナボタの恵みを頂こうと企んでいるわけです(笑)。ただし、チャンネル登録者数2万を超えている知り合いの牧師に、「YouTubeはサムネで決まるよ!」と教えていただきましたので、サムネイル(*1)だけは、それなりのものを作ろうと心がけています。

若い世代のスピード感

また、最近では、YouTubeショートやインスタグラムで教会のイベントの様子をアップするようになりました。これはユースメンバーが若い感覚で作ってくれています。50代の私には、画面の切り替えが早すぎるのですが(笑)それが若い世代のスピード感なのでしょう。作ってもらったそのままをアップしています。そのおかげもあってか、2年ほど前は、当教会のチャンネルを視聴してくださっている方は65歳以上のシニア層が8割を超えていたのですが、徐々に、幅広い年齢層の方が聞いてくださるようになっていきます。

何が正解かわからぬままに進めている状況ですが、1つの説教を数百人の方が聞いてくださっていると思うと、身の引き締まる思いです。立派な説教は語れませんが、御言葉に真摯に向き合い、文脈を意識してその日の範囲を分解し解釈をするという基本形を続けていく中で、必要ならば、YouTubeチャンネルも主が用いてくださるでしょうし、そうでなければ衰退していき、それもよし。……と、フラットな気持ちで委ねつつ、YouTubeチャンネルからのタナボタ的恵みを、ちょこっと期待している今日この頃です。

(*1) サムネイル：動画の内容を視聴者に伝える小さな画像。動画の表紙のような役割を持ち、視聴者に興味を持ってもらうための重要な要素の一つ。



「賛美とみことばと祈りの力」

沖縄ゴスペルファミリーチャーチ 金城 暁子

ハレルヤ！力ある主の御名を賛美します。主人である金城信一郎牧師の病を通してなされた主の御わざをお証します。

超最悪の診断と信仰の戦い

2022年6月、主人は原因不明の高熱が続いたため検査入院をしたところ、あれよあれよという間に腎肝機能の低下、血小板の激減、食欲不振、全身の浮腫、倦怠感などの症状が一気に重なり、その上肺に影があり腫瘍マーカーの数値も高く、急激に衰弱し、主治医からの想像以上に悪い説明に大きな衝撃を覚え、その日から教会メンバーをはじめ、あらゆる牧師会、宣教団体、多くの信仰の友に祈りのリクエストを発信するようになりました。涙を持って必死に祈り、みことばに飢え渇く中で詩篇118:17「私は死ぬことなくかえって生きて、主のみわざを語り告げよう。」が与えられました。癒された後の使命も約束されていることに確信を得ました。にも関わらずますます衰弱してゆく主人の姿を目にし、現実的な厳しい医師の説明を耳にするたびに何度も不安や恐怖という闇の力に覆われましたが、そのたびに与えられたみことばによって断ち切り、みことばの約束を宣言しました。

悪化の一途の病状と祈りの応援

理性的で常識的な信仰ではなく、理性も常識も遙かに超えた事をなされる主に信頼し、このお方が語られたみことばは必ず成ると信じて祈り続けました。真夜中に友人の家に行って「パンを3つ貸してくれ」としつこく頼むなら、そのしつこさのゆえに聞いてもらえる、とイエス様が教えてくださったからです(ルカ11:5~)。主人との面会時間の中でも毎日欠かさず共に賛美し、みことばを宣言し、手を置いて祈りました。最高血圧が50まで下がって病院から呼び出された時も、血小板が2000まで低下した時も(正常値は15万以上)、苦しくて胸が張り裂けそうな時も、「賛美とみことばと祈り」によって信仰を保っていました。そんな中、主治医から呼び出され「何をやっても結果が出てこない。かなり弱っている。肝不全を起こして全身に黄疸も出ており毒素が身体中に回ってきているため、これから朦朧としてくるだろう。血小板は輸血しても輸血しても翌日には半分に減ってしまう。これ以上、何の治療もできないのに、血小板輸血だけを繰り返すわけにはいかない。もう治療法がないことを本人に伝えてやめた方が良い。本人もわかっているはずだ。」と宣告を受けた時は、文字通り目の前が真っ暗になりましたが、それでも「私は諦めません。」と答え、翌朝から断食し、病院の周囲を「賛美とみことばと祈り」をもって7日間歩きました。他教会からも多くの牧師・兄弟姉妹が集まって心を合わせて共に歩いてくださり、とても励まされました。



「暁子さん、僕、癒された！」

遂に死の宣告から5日後の朝。「暁子さん、僕、癒された!」と興奮気味に電話がありました。何があったのか聞くと「明け方3時半ごろ、体中に“温かいもの”が流れ、力が出てきて『神様が癒してくださった』とはっきり確信した。嬉しくて賛美した。」と言うのです。喜びと感謝と感動に溢れました。その日の“祈りの歩行”に来られた方々にこの嬉しいニュースを報告し、「主は良いお方」を賛美しているときに、目の前に見事な虹が現れ、主は、みことばの約束は必ずなること、心配しなくて良いという励ましと希望を与えてくださいました。そこから癒しの御わざが加速度的に進み出し、翌月には退院したのです。3ヶ月間の入院でほぼ寝たきり状態の上絶食だったので体力はかなり低下しており、退院時は要介護5でしたが、1年後の調査の結果は要介護2にまで回復していました。今も驚くほど食欲は増進し、体力も増強し続けています。

主は生きておられます。この大きな試練を乗り越えることができたのは、賛美の力、みことばの力、祈りの力によります。私も家族も祈りましたが、教会員や所属連盟の牧師、兄弟姉妹、超教派の多くの方々との祈りに支えられました。「どうか、私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方に、教会において、またキリスト・イエスにあって、栄光が、世々限りなく、とこしえまでもありますように。アーメン。」(エペソ 3:20~21)

卒業生は今



妻と共に

主が万事を益とされます

湘南ホライズンファミリーチャーチ 牧師
モンテッソーリ鎌倉こどもの家 インターナショナル 園長 加藤 允基

私は2001年3月にJ T J宣教神学校を卒業しました。その後今日まで、奇跡の主が何度も私たちを助けて下さいました。

最悪を最善とされ、J T Jに入学

それは40代の仕事に脂がのった頃でした。私がシステムエンジニア(SE)として働いていたとき、バブル崩壊で会社が大きな危機に直面し、ある戦略ソフトの開発と販売の責任者を命じられました。苦闘の末、バージョン1を完成させ、販売局面に入った時、時代が大きく変わり、売り上げが上らず、心身ともに疲れ果てました。遂に過労で倒れ、将来を全て神様に委ね、会社を休まざるを得なくなりました。神様がストップをかけられました。プロジェクトリーダーの任を解かれてスタッフ部門に転属となり、私は超多忙から解放されました。チャンス到来と1994年9月、長年の夢、聖書を専門的に学べるJ T J宣教神学校(3年コース)に嬉々として入学。主は、最悪を最善のチャンスとしてくださいました。

新たに教会開拓のチャレンジが与えられた

学びは働きながらで大変でしたが、充実した大変楽しい時でした。後ろ髪をひかれつつ2001年3月に卒業しました。将来を祈る中、翌年正月、ある新年聖会に出席していたとき、主が私の心に「あなたの愛するひとり子イサクを……ささげなさい。」(創世記22:2口語訳)と語られました。それは、信徒の時(30代)に自宅を用いて開拓伝道した、愛するK教会を神様に献げ、新たに牧師として開拓伝道しなさいという、主か



教会・こどもの家合同クリスマス会

らのチャレンジでした。それで、その年の4月、SEとして働きつつ今度は牧師として、再び自宅を用いて、J T J卒業の妻子と共に、新たな教会の開拓を開始しました。その結果、「湘南ホライズンファミリーチャーチ」と幼児教育スクール「モンテッソーリ鎌倉こどもの家」が誕生しました。

仕事の面でも、スタッフ部門に移った結果、世界的に注目される新しい見積技術の導入と教育に携わるチャンスが与えられました。同時に大学院でも教え、会社退職後の牧師としての働きを、経済的に支えることになりました。私が知らない中で、神様が前もって備えをされました。「主の山には備えがある。」(創世記22:14新改訳2017)

主が万事を益とされます

教会開拓と同時に、「モンテッソーリ鎌倉こどもの家」をスタートした結果、保護者と園児の中から救われる方が次々起こされました。又、スクールで英語も教え始めると、さらに園児が増え、より多くの保護者に福音を語ることができ感謝です。家族だけでゼロから開拓した当初は苦しいことが多々ありましたが、当教会で救われた保護者やスクールの先生方が、今は教会を支える中核となっています。昨年は、当教会に「湘南ホライズンクワイア」を立ち上げることもでき、老人ホームでもクリスマスコンサートを開くことができました。

困難はありますが、万事を益とされる神様が、教会をさらに成長させて下さると、大きな期待を持っています。今後も、「神を愛する人々……のためには……すべてのことを働かせて益としてくださる。」(ローマ8:28新改訳第3版)神様を信じ、キリストによって現わされた神の真実の愛を、生涯かけて伝えていきたいと願っています。



湘南ホライズンクワイアメンバー